

カーシート補強材最大手 大塚産業マテリアル

補強材で成形タイプ強化

自動車以外の用途開拓も

大塚産業マテリアル(滋賀県長浜市)は主力のカーシート補強材で成形タイプを強化するとともに、主力である自動車資材以外の用途開拓にも取り組む。

皮とウレタン間に使用する補強材の最大手で、国内市場で約70%のシェアを持つ。補強材は主にニードルパンチ不織布を縫製あるいはプレス成形して生産する。年間生産量は5千万枚で、国内の全自動車メーカーに納入する。

現在、力を入れるのは、力を入れるの通常の薄くなり、破れる深絞り成形(間口1に対して約3倍も可能)を均一な厚さで実現するほか、4方向逆テーパーでの深絞り連続成形もできる。不織布以外にもプラスチック、フィルムなど他素材、さらに異素材の複合成形も可能など、同社は優れた成形加工技術を持つ。これを生かし、各種表皮材など補強材以外の拡大にも取り組む。

新用途開拓に向けて各種展示会へ積極的に出展する。直近では10月18〜20日、長浜バイオ大学ドーム(滋賀県長浜市)で開催される「びわ湖環境ビジネス・メッセ2017」(11月15〜17日、東京ビッグサイト(東京都江東区))で開催の「新価値創造展2017」に出展する。「新価値創造展」は昨年の出展で電気関係など新規分野を開拓できた(大塚誠蔵取締役営業部長)と言う。

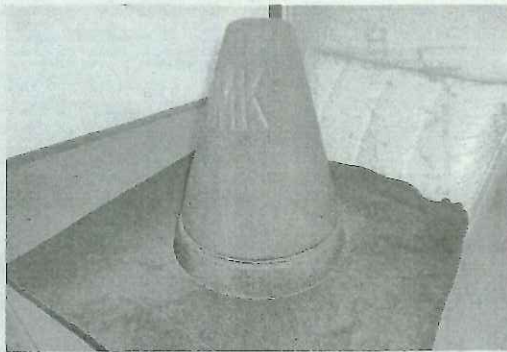
同社はカーシート補強材のほか、一体発泡ヘッドレスト、カーシートカバー、一体成形によるサイドパネルカバーなどを製造販売しており、17年3月期の売上高は103億円。その90%が自動車向け。

国内に加えて、中国子会社の嘉興興津佳特種紡織品(浙江省平湖市)で縫製と成形による補強材を手掛けるほか、今年、大塚産業マテリアル(ベトナム)も設立し、ベトナム・ハノイで補強材の生産販売を始めた。

ポトムアップによる改善提案活動にも定評があり、社員からの提案は月間800件超。これにより生産性の向上、在庫削減などの成果に結び付いているほか、大塚敬一郎社長は「改善提案活動に

より企業風土が活性化し、ベクトルが同じ方向に向かうことにつながっている」と話す。

同社は大塚産業クリエイツ、大塚産業ソーイング、大塚産業インテリアから成る大塚産業グループの1社であり、創業は1706年。蚊帳製造としてスタートし、300年以上の歴史を持つ。



約3倍の深絞りも均一な厚みで成形できる成形(間口1に対して約3倍も可能)を均一

な厚さで実現するほか、4方向逆テーパーでの深絞り連続成形もできる。不織布以外にもプラスチック、フィルムなど他素材、さらに異素材の複合成形も可能など、同社は優れた成形加工技術を持つ。これを生かし、各種表皮材など補強材以外の拡大にも取り組む。

新用途開拓に向けて各種展示会へ積極的に出展する。直近では10月18〜20日、長浜バイオ大学ドーム(滋賀県長浜市)で開催される「びわ湖環境ビジネス・メッセ2017」(11月15〜17日、東京ビッグサイト(東京都江東区))で開催の「新価値創造展2017」に出展する。「新価値創造展」は昨年の出展で電気関係など新規分野を開拓できた(大塚誠蔵取締役営業部長)と言う。

同社はカーシート補強材のほか、一体発泡ヘッドレスト、カーシートカバー、一体成形によるサイドパネルカバーなどを製造販売しており、17年3月期の売上高は103億円。その90%が自動車向け。

国内に加えて、中国子会社の嘉興興津佳特種紡織品(浙江省平湖市)で縫製と成形による補強材を手掛けるほか、今年、大塚産業マテリアル(ベトナム)も設立し、ベトナム・ハノイで補強材の生産販売を始めた。

ポトムアップによる改善提案活動にも定評があり、社員からの提案は月間800件超。これにより生産性の向上、在庫削減などの成果に結び付いているほか、大塚敬一郎社長は「改善提案活動に